

『たとえで話すのは…』(マタイの福音書 13章1-3, 10-18節) 2022.8.7.
<はじめに> 聖書はとて興味深い書物です。何回読んでも、新鮮な気づきと語り掛けがあるからです。だからと言って、聖書は取っつきやすい書物ではないかもしれません。むしろ読み応えがあります。それでも取っ掛かりやすいところもあります。その一つがたとえ話です。

I たとえで話す

①たとえの名手・イエス(3, 10)

イエスはたとえを数多く語られました(3)。未知の事柄を、相手が知っている事象を用いて解き明かす手法です。イエスのたとえは自然界や日常生活を題材に語られ、時代や文化を越えて普遍的です。どんなたとえを思い出せますか。

②たとえの種類と用法

「…のようだ」と明確にたとえる「直喩」、はっきりたとえの形式を示さない「隱喩」(例:ヨハネ 15:5)などがあります。分かりやすく説明するためだけでなく、部外者に真意を隠すためにたとえを使うこともあります(隱語など)。イエスは何をたとえで伝えようとしたのでしょうか。

③天の御国の奥義(11)

弟子の質問(10)にイエスは答えて語られます。天の御国の奥義がイエスの主題です(11)。天の御国とは神が統治される世界で、天国(死後の世界)と限りません。神の統治に無知・無自覚な私たち人間に、イエスはたとえでそれを解き明かされます(マタイに 11 回)。

II たとえの壁

①たとえで話す理由(13)

可視・可聴的な現象の奥にある隠された真意まで読み取り、聞き取り、悟ることをしない人々が現にいます。イエスは真理を安売りされません。たとえを語ることで、聴衆の中に天の御国の奥義を見出す者を探られます。見出そうとしない者には奥義は隠されます。

②預言の実現(14-15)

イザヤの預言(イザヤ 6:9-10)は神に背き離れたすべての者に実現しました(13 節引照)。「～ないように」(15)は神が彼らの能力を一方的に制限したのでしょうか。むしろ、神から与えられた能力と機会をその人が活用しないが故に、「わたしも癒すことがない」のです。

③許されていません(11, 16-17)

強烈な表現です。弟子以外をイエスは一方的に排除したのでしょうか。弟子たちは見ている、聞いているから幸いだ、とイエスは言われます。預言者や義人でさえ切望しても見聞きできなかったことに、弟子たちは知ることが許されています。私たちはどうでしょうか。

III ですから、聞きなさい(19)

①何を求めて近づくのか

イエスが語る「聞く・見る・悟る」が、単なる聴力・視力・思考力でないことは明らかでしょう。大勢の群衆もイエスに群がった(2)のは何故でしょう。弟子たちがイエスに従ったのはどうしてでしたか。一例としてヨハネ 6 章で両者を見比べてください(6:15,26,60,66/68-69)。

②はじめの一步(10)

イエスが期待する「聞く・見る・悟る」に弟子たちが達していたからとはとても思えません。ただ彼らは分からないこと、不思議に思ったことをイエスに問い掛けただけです(10)。イエスに私たちが聞き、問い掛けると、イエスはより深い真理を語り掛けてくださいます。

③たとえを聞きなさい(18)

今日の聖書箇所の前段(3-9)で、イエスは種を蒔く人のたとえを語っておられます。ストーリー自体は単純ですが、そこに隠されている天の御国の奥義は何でしょうか。イエスがたとえを話された意図と深い結びつきがあります。それをあなたは知りたいと思いませんか。

<おわりに> 次回は種を蒔く人のたとえに聞きます。初めて読む心持ちで読んでみてください。今までに得た知識や先入観は脇に置いてくださると幸いです。そして、気付いたこと、発見したこと、わからないことなどをメモしておかれるとなお幸いです。(H.M.)